

# 生物多様性条約COP13合同報告会

## —石川の里山里海資源を人づくり、地域づくりに活かすには—

日時：2017年2月9日 13:30-17:00

場所：石川県政記念しいのき迎賓館 2階 ガーデンルーム

主催：国連大学サステナビリティ高等研究所

いしかわ・かなざわオペレーティング・ユニット

共催：石川県

### プログラム

- |                   |   |
|-------------------|---|
| 13 : 30 – 13 : 40 | 主催者挨拶 国連大学サステナビリティ高等研究所 (UNU-IAS)<br>いしかわ・かなざわオペレーティング・ユニット (OUIK) 所長 渡辺 綱男<br>開会の挨拶 「石川宣言の紹介」石川県 企画振興部 課長 片山 達也  |
| 13 : 40 – 14 : 10 | COP13 報告① 「生物多様性条約 COP13 の結果概要と地域への期待」<br>環境省自然環境局 自然環境計画課 生物多様性地球戦略企画室<br>室長 中尾 文子   |
| 14 : 10 – 14 : 40 | COP13 報告② 「市民社会から見た愛知目標達成にむけた動き」<br>(公財) 日本自然保護協会 経営企画部 副部長 道家 哲平   |
| 14 : 40 – 15 : 00 | COP13 の報告③ 「生物文化多様性を軸にアジアとの学びあいを考える」<br>UNU-IAS OUIK 事務局長 永井 三岐子  |
| 15 : 00 – 15 : 20 | コーヒーブレイク  |
| 15 : 20 – 16 : 55 | パネルディスカッション<br>「生物文化多様性を通じたアジアとの学びあいから<br>人づくり、地域づくりをすすめるには」<br><br>コーディネーター： 渡辺綱男 (UNU-IAS OUIK)<br>パネリスト： 中尾文子、道家哲平、上田哲行 (プロジェクト・アイ)、<br>島由治 (環白山保護利用管理協会)、萩のゆき (まるやま組)、<br>飯田義彦 (UNU-IAS OUIK)、イヴォーン・ユウ (UNU-IAS OUIK) |
| 16 : 55 – 17 : 00 | 閉会の挨拶 金沢大学客員教授、UNU-IAS 客員教授 中村 浩二   |

## 登壇者プロフィール



### 中尾 文子

環境省 自然環境局 自然環境計画課 生物多様性地球戦略企画室 室長

国立公園自然再生、エコツーリズム等の地域とすすめる自然環境保全に携わった他、生物多様性条約の資金メカニズムである地球環境ファシリティにおいて途上国支援、国連大学において SATOYAMA イニシアティブ国際パートナーシップの発足を担当。現職では生物多様性及び生態系サービスに関連する国内施策・国際協力の推進等を行う。



### 道家 哲平

(公財) 日本自然保護協会 経営企画部 副部長

生物多様性条約の NGO における第一人者。国際的な情報収集・分析を行い、日本の生物多様性保全の底上げに取り組んでいる。2010 年愛知県で開催された生物多様性条約 10 回締約国会議 (COP10) では、NGO グループの全体運営を行い、COP13 でも「UNDB の日」のプログラムディレクターを務めた。国内では、2020 年までに日本から愛知ターゲットの達成を目指し、企業や団体、自治体など多分野のセクターのネットワーク化を行いながら、地域や企業の生物多様性戦略、にじゅうまるプロジェクト、UNDB-J などの生物多様性保全事業を推進している。



### 上田 哲行

プロジェクト・アイ会長 石川県立大学名誉教授

富山県出身。京都大学大学院理学研究科単位取得退学。博士 (理学)。石川県立大学名誉教授。専門は動物生態学・保全生態学。主にアカトンボの研究を行ってきたが、同時にハンミョウ類の研究も行っている。また、人と生きものの関係を風景論として捉える試みも行っている。



### 島 由治

環白山保護利用管理協会 理事 (事務局担当)  
アルスコンサルタンツ株式会社 企画開発 本部長

都市空間の緑から自然公園の環境保全までの計画・設計、地域ブランディングのデザイナーとして活動。立ち上げ当初から環白山保護利用管理協会の運営をサポート。



### 萩の ゆき

まるやま組主宰

1966年東京都生まれ。日本女子大学家政学部住居学科卒。デザイナー。金沢大学「能登里山マイスター」、「能登いきものマイスター」認定。能登を中心とした農林水産物などの商品企画やグラフィックデザインに関わる。13年前にアメリカから能登へ移住。ライフワークとして土地に根ざした学びの場まるやま組を主宰。1男2女の母。



### 中村浩二

金沢大学客員教授。UNU-IAS 客員教授。農学博士 (京都大学)、専門は生態学。東アジア農業遺産学会 (ERAHS) 日本代表、能登里山マイスター養成プログラム (2007-2011)、能登里山里海マイスター育成プログラム (2012-) 等を運営する金沢大学里山里海プロジェクトの代表として、石川県の里山里海の保全、総合的活用、地域再生をめざす。



### 渡辺綱男

UNU-IAS OUIK 所長。1978 年東京大学農学部を卒業し環境庁 (当時) 入庁。自然環境計画課長、自然環境担当審議官を経て 2011 年 1 月より自然環境局長。2010 年 10 月に愛知県名古屋市中区で開催された生物多様性条約第 10 回締約国会議 (COP10) の準備事務局局長を務める。2012 年 10 月より自然環境研究センター上級研究員、2014 年 1 月より現職。



### 片山達也

石川県企画振興部課長 (高等教育振興・国際機関連携担当)。2005 年文部科学省入省。科学技術人材の育成、児童生徒のいじめ対策、オリンピック対応等の業務を経て、2016 年 4 月から現職。



### 永井三岐子

UNU-IAS OUIK 事務局長。上智大学仏語学科卒業。政策研究大学院大学修士 (国際開発)。2014 年より UNU-IAS OUIK にて研究と政策の統合を軸に事務局長として全体のマネージメントに携わる。金沢市出身。



### 飯田義彦

UNU-IAS OUIK 研究員。2014 年より現職。自然共生型社会研究の推進、生物文化多様性をテーマにした国際対話事業に参画。景観生態保全論分野にて京都大学博士 (地球環境学)。白山ユネスコエコパーク協議会事務局アドバイザー。



### イヴォーン・ユー

UNU-IAS OUIK 研究員。シンガポール出身。2002 年来日。東京大学公共政策大学院修了後、現職。能登の世界農業遺産の保全と里山里海資源の持続的利用についての研究と保全活動に取り組む。東京大学大学院農学生命科学研究科農学国際専攻博士課程に在籍。